

インターバンクの声（2016年11月22日）

東京市場の昼過ぎにしっかり 111 円台に乗せた円相場だったが、その後どうしても 111 円 20 銭が越えられず、終盤からロンドン市場の昼にかけては 110 円台中盤まで円の買戻しが進んだ。この時間帯で米国債利回りが低下傾向だったことも影響していたようだ。このままニューヨーク市場でも 110 円台での取引が続くと思われたが、米株価の上昇やフィッシャー米連邦準備理事会 (FRB) 副議長が「米経済のインフレと失業の状況に基づき、FRB が実施する必要があることが阻まれることはない」とドル高相場を考慮しても利上げの実施には影響しないとの見解を示したこともあってドルが反発した。

さらに原油価格の上昇もあり、東京市場で抜け切れなかった 111 円 20 銭を越えてこの日の高値となる 111 円 36 銭を付けた。この局面ではユーロに対してもドル買いが進んでいたが、ニューヨーク市場の終盤が近づくにつれてドル買いが弱まり、円とユーロを買戻す動きが強まった。

ここに飛び込んで来たのが、福島沖での地震のニュース。情報サービス会社が英文で「東京の近くで地震発生」と報じたため、いつもの不可思議な円買いから 110 円台中盤までドルが売られた。津波警報が解除されるまで暫くは円売りを進め難いかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。